

◆室町後期の商人による、
貴重な源氏物語研究

平安中期に成立した『源氏物語』は、主要人物だけでも五十人以上、七十余年にわたる期間を描いた長大な物語です。複雑な人間関係や物語の流れを理解するための注釈書の作成は、早くから行われ、平安末期にはすでに始まっています。宮廷貴族の中で生まれ、読まれた作品でしたが、室町後期になると、その購読・研究は、広く武家・町人の間にも行われるようになりました。

本書の著者林宗二（一四九八—一五八一）は、南北朝時代、建仁寺両足院の開山龍山徳見禪師に従って来

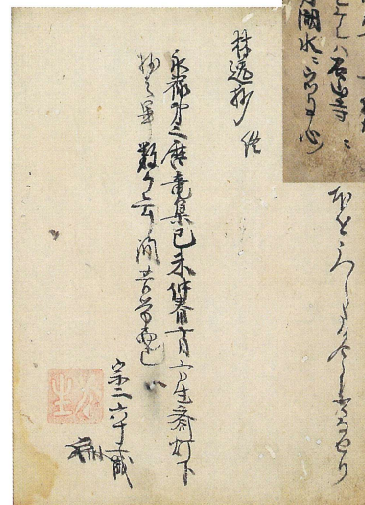
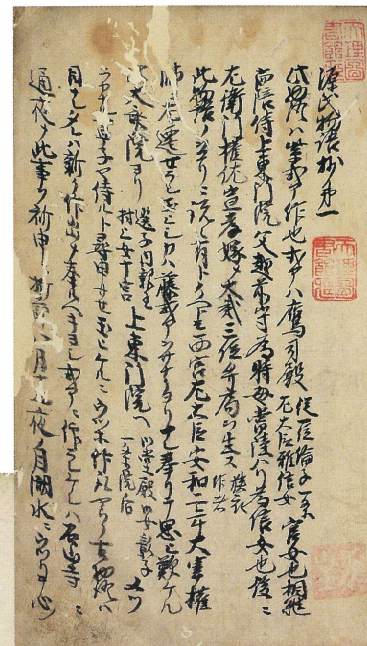
朝し、奈良に留まった中国（元）の禅僧林浄因の子孫を伝えたと言われ、浄因は中国より饅頭の製法と仰がれています。林家の子孫は、多く両足院の僧となり、また一方、饅頭屋を家業としました。

宗二も、「饅頭屋宗二」「塩瀬宗二」等と記録されるほど、広く世に知られる商人でしたが、連歌師としても知られ、さらには漢学を当代随一の儒学者である清原宣賢（一四七五—一五五〇）に、和学を三条西実隆（一四五五—一五三七）に学んだ人物でもありました。宗二の学識は広範な分野に深く、各寺院で行った禅・唐詩文・源氏・伊勢に

およぶ講義には、僧だけでなく貴族までもが聴講に集まったと伝えられています。本書五十四卷四十五冊は、およそ十年を費やして永禄二年（一五五九）頃に著されました。その価値は、まず、当時の源氏物語研究の正統とも言うべき貴族の三条西家流に対して、貴族ではない一般の連歌師達の説を伝えるところにあります。また、源氏物語講義・問答の有様がうかがえるかのように、当代の連歌師達の講義などが、時に話し言葉のままに書き加えられているその内容は、当時の俗語・口語を伝えるものとして大変貴重な資料といえます。

（天理図書館 西口尚子）

林逸抄



▶【りんいつしょう】

林宗二自筆

永禄2年(1559)頃写

54卷45冊

縦20.5~27.5㎝/横15.1~18.6㎝



＜天理図書館のお知らせ＞

Tel 0743-63-9200 URL <https://www.tcl.gr.jp/>

◇平日(午前9時~午後5時半) 土・日・祝(午前9時~午後4時半)

○4月の休館日: 2日・9日・16日・18日・23日・28日・30日

○本書は今年開催する展覧会「源氏物語展—珠玉の三十三選—」に出品します。

※最新の情報については公式HP、Twitterでご確認ください。